



## 延命治療事前要望書

あなたが、もし何らかの事情で自分の意思を伝えることが出来なくなったら、どういう治療を望むか、望まないか、あなたの希望はだれにもわかりません。この延命治療事前指定書は、意思表示が出来なくなったときに備えて、あなたの希望を記入しておくものです。また、本人またはご家族等の要望を尊重し、人権と生命の尊厳に配慮した医療行為を選択するためのものもあります。

### 【趣旨】

1. 延命治療事前要望書は、本人の意識がない場合や、判断能力がないと判断される場合に、本人の意思に基づく治療行為を医療者側に伝える手続きです。人権を尊重した人道的な医療を進めるためのものです。
2. 本人や本人の意思を最もよく理解されているご家族の方等と、将来受けたい治療行為や終末期にどのような延命治療を希望するかなど最善の治療方針について十分に話し合い文書化しておくためのものです。
3. 延命治療事前要望書は、いつでも変更、修正が可能です。

※回復の見込みがないときなどの治療行為について、以下のように要望します。

要望される治療に  チェックしてください。(ご本人の意思表示が困難な場合、家族等がご記入ください)

心臓マッサージなどの心肺蘇生	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
気管挿管	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
人工呼吸器の装着	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
気管切開	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
昇圧剤の使用	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
輸血・血液製剤の使用	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
人工透析の実施	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
鼻チューブによる栄養補給	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
中心静脈による栄養補給	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
胃ろうによる栄養補給	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 現時点では判断できない
その他の要望	例) 家族等が来るまで延命希望など		

※延命治療に関する意志等の確認ができない場合など、これらの治療が行われることがあります。

### 【署名欄】

記載年月日	令和 年 月 日		
本 人	氏名 住所	(T・S・R	年 月 日生まれ)
家族(代理人)	氏名 住所	(続柄	)

## 延命治療とは

回復が見込めないと判断されている状態で、中心静脈栄養や心肺蘇生等の医療行為によって 少しでも永く存命していただく治療です。

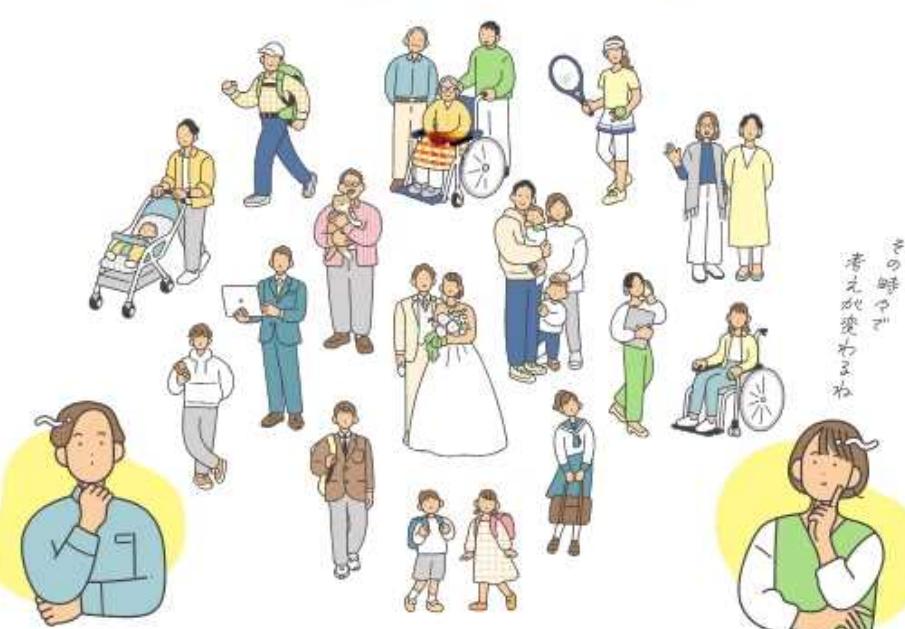
## 終末期とは

致死的で重篤な状態におちいり死期が数週間ないし数ヶ月にせまり、現在の医学では回復の見込めなくなった状態を広く「終末期」といいます。

 厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare

# 「もしものときに、どうしたいか」は、 変わっていくことがある。

どのような生き方を望むかは、一人ひとり異なるもの。  
また、ライフステージとともに変わることもあります。



人生の最終段階において、あなたはどのように過ごし、どのような医療やケアを受けたいと思いますか？  
あなたが大事にしたいこと、望む生き方について、考えたり、話してみたりすることは、  
もしものときに、あなたの望みをかなえる第一歩となるはずです。

あなたが望む生き方。  
**人生会議 アドバンス・ケア・プランニング(ACP)**

あなたが大事にしていることや望んでいること、どこで、どのような医療・ケアを受けたいかを、自分自身で前もって考え方、周囲の協力する人たちと共有しておくことを、アドバンス・ケア・プランニング(ACP、愛称：人生会議)といいます。

01 あなたが大切にしていることは何ですか？  
02 何歳でも、おじいちゃんやおばあちゃんがいる限り、繰り返し考え方を話し合いましょう  
03 お年寄りの方へ、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒にアドバンス・ケア・プランニングをしてみましょう

変わっていくこともあるけれど、何度も繰り返し、見直すことができるから。  
いま、あなたができることから始めてみませんか。

# □ □ □ □ □ □ □ □ □ 治療行為の用語説明 □ □ □ □ □ □ □ □

## 心臓マッサージなどの心肺蘇生

心臓マッサージとは心臓が停止した際に、胸の上から心臓付近を強く圧迫して心臓を動かす手技です。この手技によって心臓が一時的に動き出すことがあります。

※心肺蘇生：死が近づいた時に行われる心臓マッサージ、人工呼吸などの行為です。



## 気管挿管

呼吸ができなくなった時、口から気管に管（挿管チューブ）を入れて、肺に強制的に空気を送り込みます。その後に人工呼吸を行うこともあります。

## 人工呼吸器の装着

自分の力では呼吸することができなくなったとき、気管に挿入した管に人工呼吸器をつけると延命されることがあります。一方で、回復の見込みがない状態で人工呼吸器を装着すると、その後人工呼吸器を外すことは家族が要望されてもできません。なぜなら、外した医師は殺人罪に問われることがあるからです。

## 気管切開

死が近づくと痰の量が増加し、窒息の危険性が高くなるために、のど仮の下の部分に手術で穴を開けて、直接気管に管を入れて痰を取り、気道を確保したり、人工呼吸などをします。この処置を行うと声を出せなくなります。

## 昇圧剤の使用

死が近づくと心臓の動きが悪くなり血圧が低下します。昇圧剤という薬を点滴（静脈注射）から入れると心臓に作用して血圧が上がることがあります。しかし回復の見込みがない状態では多くの場合効果は一時的なものになります。

## 輸血・血液製剤の使用

死が近づくと消化管などからも出血しやすくなり、貧血や血圧低下をきたしやすくなります。輸血・血液製剤は献血者の善意の血液から製造されたものですから、回復の見込みがない状態では使用されないのが一般的です。

## 人工透析の実施

腎不全に陥った場合に尿毒症になるのを防止するため、透析回路を用いて血液の老廃物除去・電解質維持・体液量調節を行う目的で、延命のため生命維持装置として装着します。

## 鼻チューブによる栄養補給

鼻からチューブを胃まで入れて、流動物を流し込んで栄養補給をすることです。味はわかりません。栄養剤が肺に逆流して重症の肺炎を起こすこともあります。

## 中心静脈による栄養補給

高カロリーの点滴だけで栄養補給することです。通常よりもやや太い管の奥まで入れて、普通より濃度の濃い点滴をします。太い管を入れるために肺や血管を傷つけたり、感染を起こす危険はあります。

## 胃ろうによる栄養補給

内視鏡を使った小手術によって、腹壁から直接胃の中にチューブを留置して体の外から栄養剤を入れるもので